

第一回「嘉田県政を検証する県民のつどい」記録（その1）

2014年4月13日（日）、午後6時から午後9時まで。

ピアザ淡海3階大会議室で、参加者 約200人

次第

- (1) 呼びかけ人代表、武村元知事からの嘉田県政総括評価
 - (2) 呼びかけ人3人からの分野別評価
 - *医療福祉（笠原吉孝）
 - *環境エネルギー（藤井絢子）
 - *自治行政改革（大橋松行）
 - (3) 嘉田からの自己総括（ここから記録 その2）
 - (4) 会場からの質疑応答（ここから記録 その3）
-

司会：県民目線で嘉田県政を検証し、次の県政を考える。問題提起をして、しっかり意見交換したい。司会は草津市の酒井恵美子と申します。

【武村正義・元滋賀知事】

私はもう過去の人間です。かなり過去の古い人間ですが、厚かましくも皆さんの前に出て、嘉田さんの8年間を検証と言うより、私のアバウトな感想を申し上げたい。嘉田県政の8年間をきちっと認識している訳ではない。アバウトです。あえて言えば、昔、県政を預かったのは40年前。今、80歳になろうとしている。知事当選時は40歳になったばかり。だからちょうど40年になる。そんなに古い人間ですが、12年近く、県政の責任を預かった経験があるので、そのことも思い出しながら感想を申し上げたい。

それにしても、嘉田さんの登場、(2006年の)県政界への登場は画期的でした。誰も考えられなかったという方が正しい。実は嘉田さんから電話をもらって、立候補の半年前、前年(2005年)の秋、お茶の水を歩いていたら携帯が鳴った。嘉田さんとしょっちゅう携帯でしゃべる仲ではなかったですが、「実は知事選に出ようと思います」というので、驚いて30分ほど話した。「やめておきなさい」と言いました。一生懸命止めました。勝てないと思ったから。話は終わったが、年が明けて、もう断念したと思っていたら2月頃、出ると聞いて驚いた。最後は「負けてもいいから頑張れ」と言った。でも、当選するとは思わなかった。

今日は國松知事、誘ったんですが、昨日から外国に行くからと断られた。國松陣営には自

民、民主など、共産党以外は全部ついた。連合も堂々と國松さんを支持した。嘉田を推した団体は一つもない。政党もない。昔、堅田湖賊がいたが、そこに小さな漁船で嘉田さんがけんかを売りに行ったような感じ。とても勝てない。大きさ、雰囲気では勝敗は決まらないが、格好だけ見れば大連合艦隊と小舟。その小舟に乗った嘉田さんが堂々と当選した。県内でも全国でもめったにない。当選後、嘉田さんに「あなたも最後まで負けると思ったでしょう」と言うと、「いえいえ」と言っていた。本当のところは分からないが、多くの県民は嘉田さんの当選は難しいと思っていたが、堂々と立派に当選した。非常に驚きでした。

私が知事選に出た時は自民対非自民。現職野崎さんを自民が推薦したので、それ以外が私を応援した。私は非自民に担がれた候補者でした。ところが、非自民の一番左には共産党も入っていて、自民は「武村は赤だ。補助金ひとつもらえなくなる」と盛んに宣伝した。嘉田さんに対しても8年前、いろんな批評があった。嘉田さんも本で書いていたが、批判は三つあった。「学者知事に何ができるか」「女で知事ができるか」「よそ者で、滋賀県のこと分かるか」。ハンディというか、そういう批判を受けながら選挙戦を戦われた。

そういういわば批判と戦いながら8年間、嘉田さんは頑張った。

学者の知事だから、逆に普通、私も含めた普通の人の天性より、冷静な判断をしたかもしれないし、やや知的な判断をしたかもしれない。また、学者だから一般の人は難しいと思う課題に理路整然と取り組んできたように思う。例に挙げれば、嘉田さんと琵琶湖、水の関係。

嘉田さんの水の考え方は大変深い。僕なんか及ばない。その結果、最終段階、今年になって浮上したのが治水条例。全国でも珍しい条例を去年提案して、今年3月に一部修正を受けたが無事成立した。中身がどうこうもあるが、とにかく水問題、川の水をどう治めるか、大変深い見地から考えているのが嘉田さんの良さだと思う。

これまでダムを造って洪水を防ぐアプローチをしていたが、水の適性を見て、100年か200年に一度は幅広い対応が必要になる洪水が起こる。少なくとも命を失わない対策をしよう、2階に上がって命を助かるようにしよう、次善の策というか、嘉田さんは「防災」ではなく「減災」と言う。

「防災」は思い上がった発想。東日本の津波もそうでした。南海地震も私たちの人知の及ばない、対策の及ばない、災害が起こる。その時は「減災」、100%防ぐことはできないので、最終、命は助かるようにする。そういうアプローチしているのが嘉田さんだと私なりに解釈した。これはすばらしい。

東日本大震災でも復興会議で専門家が議論して「減災」という言葉を提案した。超える分はあきらめるより仕方ないと。政治はあきらめざるを得ない問題です、すさまじい災害は。祈って死ぬしかない災害がある。それを頭のすみに置かなければならないと、治水条例は深い、嘉田さんの長年の知見から生まれた全国の先鞭だと思う。

女性知事だから男のようにできないという見方もあるが、女性知事だから男の知事にできないことができたとの評価もある。最終的には男女の違いがないかもしれないが、嘉田さんは子育て支援、よくやってきた。あと、アール・ブリュットですか、障害者の芸術に目を向けて県立美術館で活動されて、嘉田さんらしいな、男の知事では思いつかない。

財政規律は、嘉田さんの8年間は守る県政だった。それは女性だからと言うと失礼だが、私は自宅では女房に金を使いすぎだと叱られ、けちな女だと思っている。女性は男より几帳面で堅実です。その良さが県政の財政運営に出ている。結果、900億円赤字を減らしたと自ら言っておられる。

安倍政権に少しは嘉田さんの気持ちを教材にしてほしいぐらいです。国はどんどん赤字を増やしていますから。赤字を増やす日本の中で赤字を減らした点は評価されるべきです。

よそ者に何ができるか。中学生で琵琶湖を見て感動したのは、よそ者だから新鮮に印象を持ったのではないか。

私は県庁にいたころ、中央省庁から来る人を特にウエルカムした訳ではないが、滋賀県に生まれ育っていない人を1割は入れたいと思った。県内で生まれ育った人だけでは大胆な発想は出てこないと感じた。

その意味で、トップの知事が滋賀県生まれでないのは、まっすぐ琵琶湖への愛着を感じたのでは。原発問題、一般的に「脱原発」は当然ですが、嘉田さんは「被害地元」という言葉を発明した。立地地元という言葉はある。福井県は原発を14基も抱える立地地元。隣の滋賀県には立地はしていない。しかし、大災害が起きればストレートに被害を受ける。真っ正面に被害を受ける「地元だ」という意味で嘉田さんが作った言葉だ。客観的に滋賀県、琵琶湖を眺めている、広い視野でながめている人の思いつく言葉だと思う。

嘉田さんは学者、女性、よそ者知事と呼ばれたが、批評に打ちかって、負けず嫌いでもあり、8年間頑張ってきたと思う。でも、昨日も藤井絢子さんのパーティがあったけど、藤井さんも東京の人。滋賀県で活躍する人、会長とか、民間含めて活躍する人は滋賀県生ま

れでない人が多い。滋賀県生まれでない人がもてる。

なぜか。僕ら滋賀県民はあちこち気遣いをして、考えてしまって本音をぐっと抑えてしまう。琵琶湖の公家の考え方。きよろきよろ世間を見て、本音を言わず、大過なく過ごす知恵を受け継いできたのではないか。滋賀県民から見れば、目立つ。嘉田さんの8年間もそう思う。やや、ほめました。以下、けなします。

そうは言っても嘉田さんも人の子。一番大きい失敗は小沢一郎と結託して、「鉛筆持ったら未来の党」とテレビで見て、「何だこれは！」と(思った)。荒唐無稽な話ではないが、第三者的に見れば唐突にうつた。一定の支持はあったが、本人が思うほど当選できなかった。政治行動としてはペケ、失敗に入る。

もう一つ、嘉田さんは他人の言うことをよく聞かない。こういう人物評はちょいちょい入ってくる。僕も会う度に意見言ったが、聞いてくれなかった。嘉田さんはやはり優等生。一番か二番で走り続けてきた人はオールマイティになりがち。よく聞いているように見えるけど、全然生かされない。嘉田さんが優等生なりの弱点。

もう一点、あえて言えば県議会を考えても自民党がおおい。私の時は42県議のうち、与党7人、あと35人、8割以上が自民党でした。自民を納得させないと予算も通らない。毎晩のように自民と酒を酌み交わした。男はずるがしこい、理屈より酒飲まして何とかしてくれ、と。それも聞かないのが5、6人いた。

嘉田さんはそんなことはできない。だからなめられているのか知らないが、8年間、県議会のコントロールができなかった。県議会に振り回されたのではないか。場合によっては政策も県議会の景色を見て遠慮された。「こんな絵を描くと文句言うから小さくしよう」とか。憶測ですが。

昨日、藤井さんのパーティで松井一郎という人が隣りにいて名刺を交わした。琵琶湖の早崎内湖をやっている。彼は「100畝のうち、県が買ったのは20畝だけ。まだ80畝、農家は売りたいと言っているけど買ってくれない」といっていた。一反部百何十万円ですから、農家がすごい事を言っている訳ではない。僕は早崎内湖、一年でも早く買い取って、琵琶湖をもう一度増やす、農地を買って琵琶湖に戻すことをもっと大胆にやってほしいと、國松さん時代から、私ができなかったのも思っていた。議会の関係もあって、嘉田さんもやりたいはずだけど、できないのは議会のこともあるのかなと思った。

嘉田県政8年間は大変手堅かった。もう一つ、琵琶湖政策は継承された。それから原発問

題、若狭の原発の怖さを何度も県民にアピールした。ここは評価しなければならない大事な事だと思う。続いて出るのか、やめるのか噂がもっぱら、五分五分か六分四分か分からない。出ようと辞めようと、8年間ご苦労様でした。

【笠原吉孝・滋賀県医師会長】

私がこの場になぜ出てくるのかと思う人もいるでしょう。聞いたのは1週間もなかった。私は子育て医療福祉の検証をする。なぜか？今、滋賀県医師会の会長だから。ただ、医師会の中で嘉田県政を議論して評価、批判するか、いえ議論していない。メールを送って会員に呼びかけた。私が間違ったら挙手して指摘してくれと言った。それゆえ今日は個人的見解です。

まず、アール・ブリュットの話が武村さんから出た。芸術教育を受けていない、生で表現する、私がNPO「晴れたりくもったり」を作って、作品を収集して始めたようなもの。この3月、日本スイス国交150周年で、アール・ブリュットの日本とスイスの作品を並べた。私は政府から行く予定だったが、大使のおつきで行った。心に留めて欲しい。

私は子育ての分野では、4人育てたが、今の子育てがどうなっているかは、ここに資料があるので見て欲しい。気になるのは、子どもをどう育てるのか。嘉田さんの資料には35人学級にしたとか、いじめ、虐待、貧困対策、いろいろ対策している。それから女性をいかに守るか、それで子育てがしっかりするという。私は医師だが、女性医師の問題を全国知事会でも取り組んでいるようなので、大変活躍していると思う。医療福祉面では思いもあるので申し上げたい。

私自身は医師会に入ったのが8年前の4月1日に副会長で、4年間やって、それから4年間、今年3月末まで会長。一年伸びた。医療には関心持っている。

武村さんが(最初の選挙で)「こんな人勝つわけない」と言ったが、私は勝ってほしかった。そして勝った。これは大変な事。滋賀県民は嘉田さんを選んだ訳ですから、ぜひ良い方向に県政を持って行ってほしい。

印象に残っているのは副会長の時、1期目に県の医療政策をしっかりとやりたいということで、公式非公式に声をかけられた。「どうしたらいいでしょう」と。その時、彼女は「県庁内で話を聞くと、どうも偏っている。広く意見を聞きたい」と言った。じゃあ、どうするか。高齢者の医療福祉の問題は大きい。これに対して何らかの手を打たないといけない。福祉医療の関係はこの中(マニフェスト素案)に描かれているので、いちいち口出しする時間はないので、一番気になっていたことを申し上げる。

平成21年4月、在宅医療を何とか推進しなければと思っていた。団塊の世代が多くなる
とか、病院で死ねないとか、色々言われたが、人間として幸せは何かと言うと、地域で家
族に囲まれて生きていく。病院はすぐ脱出した方が良い。特に旅立ちの時、どうあるべき
か。1人1人聞くと、家族、知人、親戚に囲まれて「ありがとう」と言ってブランデーで
も飲んで旅立ちたいと思う。

そう思ったら段取りしないといけない。医師会も黙ってられないということで、高齢者
医療の在宅医療推進のための提言をまとめて、県と医師会員に提案した。嘉田さんは知事
として、「大事な事だ。やるしかない」と推進のために在宅看取りの地域創造会議を設立
して準備してくれた。東近江の小鳥さんも（今日会場に）来てくれているが、「三方よし」事
業。地域の医師の活動を県として取り上げてくれたのは貴重な事だ。県民と共有しなけれ
ばならない。当事者が遠慮したら困る。サポート側も365日24時間やったら本人が死
んでしまう。

ぜひ皆で推進しようということで、嘉田さんと芝居をして、吉本新喜劇みたいな、彼女も
天使になって、幸せに旅立てるという芝居をした。それが非常に大事だと思う。それを含
めて、今大事なものは何か。市民の手で知事選候補者を、という声を出している。初当選の
話が出たが、それは市民、県民の力があつたから。非常に強く思う。今回どうされるか分
からないが、誰が出ようと、役人を連れてくるだけでは県民は選びようがない。今の政策
を検証して将来に向かう方が良いのではないか。こんなことを言うと提灯持ちに思われる
ので、私も一つ問題点を言いたい。

知事は神ではない。こちらに力を注げば、こちらに力減るのは当然。マイナスと思う事も
多々あつたと思う。県の病院作つた立場では気になる。三つ県立病院がある。本当に県民
税を投資したように、期待されたようにうごいているか検証して、もう一度考えてほしい。
お金をかければいいのではなく、ちゃんとした人がやらないといけない。病院、在宅医療、
そういう人は医師だけでない、様々な職種のさまざまな人材がいる。こういう医療を受け
たい、という声が出ている。こういう支えが必要だということで、支えようという動きもあ
る。そういう部分をいかに結集させるか。これから是非考えてほしい。

最後に、時間が来た。ややもすると、今は自民党だよと、いや、民主党、共産党の方が良
いと、政党で右往左往しなければならぬと思う人もいるが、そうではないと思う。私が
（滋賀県に）来た時は昭和55年、武村知事がいて、私たちが言うことにも耳を傾けてく
れた。私は全力を注ごうとした。頑固だと言っていたが、頑固でなければ新幹線止められ
なかつたとか、いろいろなことがあると思う。それを超えて、みんなの力、多くの人に多

くの力が備わっている。

嘉田さん自身でなくても、知事になる人は見識、品格、将来を見すえる（力）とかが一番大事。一つ一つの政策がどうこうよりも滋賀県民が選んだ素晴らしい財産だと思う。

【藤井絢子・菜の花ネットワーク代表】（まだご本人の確認を最終的に得られておりません。2014年6月22日段階）。

私は1977年に滋賀県に来た。武村知事の時代だった。民主政権も自民政権も中央環境審議会委員として、国の施策を見る立場をいただいている。もう一つ大きいのは、3・11のあと、福島の間貯蔵施設をどこかに持っていかないと前に進まないという大変な仕事を思いながら双葉(町)のあたりも歩いている。毎月福島に通っている。嘉田知事は、武村知事がほめて最後に小沢がいかんと言ったが、私もあれはマイナス点を付けたい。ただ、3日前（4月11日）、政府のエネルギー基本政策が出て、「これはいかん、滋賀から日本を替えないといかん」と思っている。嘉田さんが立つにしても、それを受け継ぐ人が出るにしても、東京都知事選のようになってしまう。そのことに思いを致すリーダーでなければ困る。

私は43年前に滋賀に来て、8年前にもこのような集会があった。嘉田さん出馬の前年、武村さんが「このまま國松で行くのかね」とぼそっと言った。嘉田さんから聞いていたんですね。その時の環境の検証役が私でした。嘉田さんも会場に来ていた。その時、知事選に出たいんだなあと言っていた。

私は市民、嘉田さんは研究者でいろいろやった。そこで一番大きかったのは淀川水系流域委員会。こういう治水の方法もあると嘉田さんは発言していた。体にしみた。流域治水条例ということで、地元の反対もあったが、ダムに頼らない治水の方式は絶対まるだと思ふ。国はこの条例を受けて、全国で流域治水を見直す議論が始まっていると聞いている。

私は嘉田さんと「ホテルダス」（住民参加でホテルを探す生き物文化調査）とかやりながら、分かりやすい言葉で話す人だと思った。

三つの公共事業を止める。そうであれば嘉田さんと思ってあのとき動いた。生協の理事長だから表だって動けなかった。1期目4年のやり方を見ると、よくストップしたと思う。男性知事なら妥協した。2期目は原発と流域治水が大きい問題。その中で常に住民に分かりやすい言葉で話す。研究者時代もそう。ある団体の言葉で語るのではなく、分かりやすい言葉で伝える。

私が親しい女性知事（経験者）は堂本さん、北海道の高橋はるみさん、太田房江さんは官僚出身。山形の吉村（美栄子）さんもいる。環境出ではないので、どうかな。

分かりやすい言葉が一番大事だと思う。駄目なこともあるが、分かりやすい言葉で滋賀県の地域課題、琵琶湖、森林、子どもの視点で子どもが育つ場を作りながら琵琶湖、森を回復する「たんぼの子」事業をやって、子どもにも分かる言葉でやったのは見事。

43年間、琵琶湖に関わる中で、知事になった8年間、「私は3000集落全部見えています」と言っていたが、なまじ知っているだけに、今その地域でどんな人がどんな政策をしたいと思っているか、目を向けなかったのではないか。議会対策が大変だったのかな、地域の課題をきっちり解決していたら議会で反対されても足腰になっていたと思う。

たとえば、私は市民共同発電をやっている。市民が地域にこういうものを作りたいというドイツから学んだ。バイオエネルギー。スコップ持って動く。安くするにはもう少し汗をかこうという取り組みを見てきた。住民の方向性を活かせる施策があると思う。

たとえば、市民共同発電所は湖南市の条例がトップランナーだと有名ですが広がらない。なぜか、条例を支える県の仕組みがない。各地域の卒原発の絵はできたが、実現のために滋賀県はどんな支えをするのか、研究者の話を聞く中で、デンマークは国の法律に市民発電は20%と描いていると言われた。滋賀県が目指すのは20%住民参加、もっと地域の人が動きやすいのではないか。

もう一つ、赤潮から随分動いてきたが、琵琶湖の問題は琵琶湖を見てもできない。森を見なければならない。皆さんは琵琶湖に関心がない。石けん運動の思いはどこへ行ったのか。（湖底の）低酸素化の問題もある。滋賀県民がかつてのようなムーブメントになっていない。つなげるために森に入った。私は森林の素人。「教えて」と言っている分野の方に森を案内してもらった。課題は分かった。再生可能エネルギーなら森の木も生かさないといけない。林業者に聞いたら、琵琶湖の森を動かすというのに共感してくれた。これからはもっと入りたい。

ところが市民グループはお金がない。琵琶湖森林税が年間6億円あって継続している。どう使われているかチェックしたら「やまのこ事業」に沢山使われている。市民が森の調査に入るとかの面で動くお金は少ない。私たちの税金をちょっとシフトするだけで、市民の動きが新たな予算を組まないでもできることがあると思う。

もう一つ、嘉田知事と県職員の関係性。県職員が嘉田さんほど、地域の事を考えているの

か、私たちには見えない。菜の花プロジェクト、一度も視察に来たことがない。バイオディーゼルのどう使っているのか見に来ない。嘉田県政はいいことやっていると思うが、先頭の人がいくら拳を挙げても駄目。地域の動く人をどれだけ陣営に引き込めるかだと思う。

私は水俣病に取り組んでいる。チッソの株を買って株主総会にいった。福島事故はまったく同じ。健康問題も調査できていない。子どもはあそこで遊んでいて良いのかと二重写しになる。命の問題、原発も水もそう。嘉田さんの政治は素晴らしいと思う。ここに来たひとは皆応援してくれる。決起集会にはできないが、琵琶湖から命の政策をする、ということをやっていききたい。今活動している人にはできない。

【大橋松行・滋賀県立大教授】

この集い、私も事後承諾で寄せて戴いた。ある政治家が「集いにでるのか、色がかかってまうで」と言われた。私は御輿を担ぐために来た訳ではない。検証するためにここに来た。無党派の立場で話をする。特に政策で投票する政党、候補者を選んでいると言っておきたい。嘉田県政8年の評価、評価できない点、両面を数字で示して検証したい。

ベースは財政状況。嘉田さんが自己評価したもの、県の資料を見ると、非常に国家財政厳しい中で、一定県財政を改善した。26年度予算は6年ぶりにプライマリーバランス（基礎的財政収支）を黒字化した。財政問題は尽力した。

ただ、今後は地方交付税が厳しくなる中、自主財源、特に県税、特に法人2税をいかに税収に結びつけるか。県内は製造業の割合高く、底上げが必要だと思う。メリハリのきいた予算配分も求められる。同時に行財政改革が求められる。

歳入面では自主財源はかなり減っている。地財は、2006年と2011年では比率が50%台から40%台半ばまで下がった。ただ、感心するのは投資的経費が一貫して下がっている。つまり、お金をあまり使っていない、財布のひもをしめてきた。嘉田県政は緊縮財政、緊縮型予算だったと言える。

基金残高の推移は財政調整、減災両基金とも数字の上では若干減ったりしているが、2013年度末には県債残高が900億円減らして、基金は増やした。さらに財政力指数は全国平均を上回る数字を維持している。財政健全化法に基づく4指標のうち、実質公債費比率は最近ちょっと上がっている。将来負担比率は第三セクターを含めた借金ですが、こちらはかなり下がっている。全国平均並み。こういう形で財政から見ると一定改善されたと評価できる。

財政状況をベースに個別政策を検証したい。嘉田県政2期目は、1基目より嘉田カラーを全面に出した。150項目の政策に現れている。

公共事業については先程から出ているが、厳しい財政状況ではあるが、もう少しこ入れしないと地域の活性化は起きないと思う。製造業が多いので特に。それからダム事業の中止凍結した点は賛否両論ある。私自身は生態系保持には流域治水対策でダムに依存すべきでないと思う。しかし、人命、財産に関わる災害には最終的な手段としてダムを位置付ける事も必要だと思う。ダムを造らないに越したことはないが、やむを得ないと思う。流域治水条例は、嘉田さんが非常に強い思い入れがあった。看板政策が修正されたが成立したのも評価できる。

ただ、今後、公共施設の耐震化が重要。教育政策では、県立高校耐震化。まだ十数校残っている。耐震化を早期に実現して欲しい。人命に関わるので早く実現して欲しい。

評価できるのは少人数学級の推進・拡充。教育環境を前進させた。

しかし、どうしても私自身納得できないのは、一言で言えば、教育行政における南高北低。ことあるごとに出てくる。私は長浜出身。昔から北部は行政サービスが弱い。典型的な事例が県立高校再編計画です。2年間でさんざん報道された。県教委が2011年に原案を発表。全県的に統廃合、分校化の対象校は長浜、彦根、甲賀市で反対運動が起こった。県議会の決議もあって、県教委は2年延期した。長浜市も市長が憲法学者を委員長とする検討委員会を立ち上げて提言書を2回、県と県教委に出した。いずれの提案も地域の声をまとめた総意でした。一部は再編計画に反映されたが、統廃合には一切反映されなかった。

私たちが何に異議申し立てしたかという、本来の手順を踏んでいなかったから。唐突に計画が公表された。本来は基本計画を発表して、相当な時間をかけて実施計画を発表すべき。それを同時に出した。内容をもむ時間がない。そして、全県一区制の検証の必要性はないと突っぱねた。この結果、どんどん南に子どもが流れている。にもかかわらず検証しないのはおかしいと思う。それから、統合新校をどこに建てるか。長浜市長はJR駅に近い企業遊休地（推薦した）。南から生徒を集めるためです。旧カネボー跡地に建ててくれと言ったが、受け入れられなかった。県教委は長浜北高校は徒歩圏内というが、ほとんどが自転車通学です。不便なところに生徒が来るか、来ないと思う。

問題点は他にもあるが、なぜ統廃合の対象が長浜、彦根なのか。生徒は減っていない。なぜ南じゃないのか。なぜ北なのか。そこを疑問に思っている。同じ規模の学校は他にもある。さらに懸念されるのは財政上の問題があるが、安易に高校統廃合をしないでほしい。

批判と受け止めてもらっても結構です。

最後に地方自治。マニフェストの自己評価に基づいて検証したい。評価できる点が多い。行政の縦割り解消、予算編成過程の公開、事業仕分けによる無駄の排除など、いろいろ進めた政策はある。しかし、課題は情報公開です。かなり整備されているが一点、分からないのは高島の河川敷に放置された(木材)チップ。この情報がきちんと公表されるのか。あのチップはどこに行ったんですか？ どういうルートでどこに行って、どう処理されたのか？ 滋賀県から出れば良いのか、そうではない、どこに行ったのか、県として公開して欲しい。

総じて、8年間、私に言わせれば全力疾走されてきたことに敬意をはらい、高く評価する。今後も出るなら先程挙げた課題に取り組んで欲しい。